

「けやき俳句の会」会報(第百回)

令和二年四月

第百回句会記録

★日時 四月一日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数九十五句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数\*印は会員特選)

- ④春陰や庫裡に人無く釜の白湯
- ②牡丹の芽墨汁一滴想いだす
- ①春榆の小花密生金剛界
- ①黒猫の眼木の上風光る

貝寄風(かいよせ)や修業時代を懐かしむ

★真樹先生選句(◎は特選)

- ◎④家事という名もなき仕事春寒し 紀泉
- ◎④天麩羅は楸芽の蕎麦や六日町 隼人
- ◎②今もなお君は清楚や彼岸墓 誠
- ◎②浅蜷絡めるパスタは海の青き味 冬水
- ◎①春没日茜に染まる富士波間 八十木
- ◎⑤芽柳に吹かれて佐原船着場 要
- ④ウイルスの見えぬ恐怖やはや四月 藍愛
- ③古屋敷護る白梅の清らなる 紀泉
- ③春青空ハングラライダー風に乘る 隼人
- ②名草の芽高原青く清らなり 夢城
- ②菩薩像のごとき影ある月おぼろ 而今
- ②剪定の美意識論議昼下がり 秋雲
- ②春シヨール巻き新しきことを待つ 香魚
- ②春泥を見つけ昭和に会いに行く 香魚
- ②私欲無く生きてきたかと春の月 隼人
- ②一面の菜の花月光輝かす 清明
- ②忘却と想起さまざま臚かな 清明
- ①同窓会初恋偲ぶ春の風 八十木
- ①すみれ草ゆかしと言えり翁想う 而今
- ①清冽な水のふるさと猫柳 香魚
- ①糸桜樹下は妖しくはかなげに 樹音

- ①春蔭や二宮金次郎像遺されて 而今
- ①鯉ジャンプ春の翡翠潜りけり 藍愛
- ①花辛夷里人もみな足止めて 清明

★会員互選句

- ④清流が春の音生む水の国 真弓
- ④ゆららかに安房の海あり春田打つ 真弓
- ④目で語る老老介護月おぼろ 隼人
- ④海の香の仄かを詰めて握る児や 清明
- ③春場所の櫓太鼓に音は無く 誠
- ③雛も覗かず花も愛でずや多事多難 真弓
- ②家近し闇夜に匂う沈丁花 誠
- ②世の芥瞬時に清め春疾風 一華
- ②飯蛸や壺の暮らしに飽きが来て 冬水
- ②沈丁花振り向かされる散歩道 秋雲
- ②青空に叫びたいこと白木蓮 要
- ①春昼や親子の釣り人賑やかに 青嵐
- ①震災地の「花が咲く」聞こえ春の色 青嵐
- ①盥船足手纏いの春の波 夢城
- ①山田守水面に映る山桜 夢城
- ①飯蛸のパスタにからむ昼下がり 冬水
- ①花咲くや弾む心の行き帰り 冬水
- ①止まる枝決まらぬままの春の鳥 東洋
- ①ぜんまいの綿毛に朝日差し入りて 東洋
- ①梅万蕾万の水玉朝日受く 一華
- ①疫病の流行る闇夜や冴返る 一華
- ①巡りくる数多の祈り牡丹の芽 真弓
- ①春寒し和敬清寂楽茶碗 香魚
- ①濡れ色の清し嫺やか雪柳 藍愛
- ①花愛でる心人のみ風知るや 樹音
- ①令和の春還暦の英姿祝す 而今
- ①春一番新種の風邪も吹き荒れる 秋雲
- ①貝塚に香り放てよフキノトウ 八十木
- ①梅の香に吹かれ軽やかストレッチ 紀泉

【次回開催】

未定